

茶屋今一廿かし

市制施行50周年記念写真集



市旗



この市章は、大正11年3月31日に懸賞募集によって制定された村章をそのまま引き継いだものです。その由来は「精道村は、山を負い海に臨む風光明媚の地にして、芦屋・打出・三条・津知の旧4カ村から成り、円満、平和にして隆々として発展の勢あり、即ち山、海、四、円平、旭を図示す」とされています。



発刊のことば

今、芦屋市は市制施行50周年の節目を迎え、21世紀に向けて「国際文化住宅都市“エレガント芦屋”」の創造と飛躍を胸にまちづくりを進めています。

思えば、市制を施行した昭和15年(1940年)は、戦時態勢下、物資統制の苦難の時代でありましたが、精道村から町制をこえての市制誕生を市民挙げて祝いました。その後、戦禍やいくたびかの天災にもめげず、市民各位の旺盛な自治精神に支えられ、英知を結集し、いち早く国際文化住宅都市の途を選択した結実が、今日の芦屋であると存じます。こうした先人の的確な判断とたゆまぬご努力に敬意を表するものであります。

市制施行50周年を記念して、写真集を発行しましたが、市制施行前についても可能な限り収録しました。それはあたかも、住宅都市としてのレールが精道村のころから敷設されていたように思えるからです。

古きを訪ね新しきを知る、温故知新の格言のように、先人の労苦を偲び市勢の発展に生かしてまいりたいと存じます。

最後に、編集にあたり貴重な資料のご提供をいただいた各位に、心から感謝申し上げます。

平成2年11月10日

芦屋市長 **山村 康六**



「波打ぎは」児玉多歌緒画 大正時代 芦屋浜のいわし地引網風景



「山河放光」福田眉仙画（岩園小学校蔵） 岩園町・朝日ヶ丘町を経て背山を望む風景、中央右手の建物は岩園小学校。



農事次第之図屏風 農作業のようすを描いた屏風、江戸時代後期。



石材引札 大正時代

石村 賣捌處 井床菊蔵
明治初年の鉄道敷設や駅舎建設のため、材質も良く安価であった芦屋地方の石材が多く利用された。その原石の切り出し、加工、運搬は、芦屋村の井床家が請け負っていたことが、史料からうかがえる。
ち坂神戸鐵道築造工事、石材の採り出し、運搬、加工、運搬、井床家の請け負ったことが、史料からうかがえる。

鉄道院文書 旧国鉄総裁室文書課

鉄道用石材の切出し

明治初年の鉄道敷設や駅舎建設のため、材質も良く安価であった芦屋地方の石材が多く利用された。

その原石の切り出し、加工、運搬は、芦屋村の井床家が請け負っていたことが、史料からうかがえる。



東洋牛乳株式会社 (明治40年～昭和20年)

“しぼりたての牛乳”で親まれた東洋牧場は、大正年間乳牛約50頭を飼育し、年間搾乳量約300余石 (54,000リットル余) をあげ、灘地方に販売した。戦災で焼失。



東洋牧場のようす 川西町 昭和初期